

高校教員として好きな数学に携わる

小田章子 (埼玉県公立高校教諭)

仕事の内容とやりがい

公立高校に数学の教員として勤務しています。仕事の内容は、授業、クラス担任、部活動の顧問の3つが中心ですが、教員の仕事は毎日がチームワークの連続です。私は現在の学校が2校目ですが、勤務校によって学校の様子が全く違うので、力を入れる点も異なってきます。教員の主な仕事は最初にあげた3つですが、どれをとっても生徒と深く関わることができます。私は生徒たちと良い人間関係を作ること、学ぶことの楽しさを共有することがこの仕事のやりがいだと思っています。

進路選択のきっかけ

高校時代の恩師に影響されて、数学を深く学びたいと思うようになりました。数学を学び、考えれば考えるほど内容の深さに魅せられて、高校生の頃は一生勉強する仕事に就きたいと思っていました。教員になろうと思ったのは大学に入学した後でした。大学でも恩師と友に恵まれ、充実した毎日を送ることができました。高校、大学を通して、親身に勉強を教えてくださいました恩師や、学ぶことの楽しさを共有した仲間との時間を振り返るたび、自分も教員になりたいと思うようになりました。それと同時にずっと好きな数学に携わることができると思いました。

仕事と家庭のバランス

現在、1歳7カ月になる息子の育児に奮闘中です。保育園探しに苦労しましたが、とても親切なところに預けることができ、今は安心して働ける状況にあります。育児休暇から復帰すると、社会の中に自分の居場所があることを改めて嬉しく感じました。公立学校の教員には育児短時間勤務など子育て中の人も働きやすい環境が整っています。育児は思った以上に大変でしたが、子供の成長は今まで感じたことのない感動を味わうことができ、とてもやりがいがあります。仕事と育児のどちらか一方のために他方を犠牲にするのではなく、周囲の理解と協力に支えられながら両立できていることをとても嬉しく思い、感謝しています。

進路選択に対してのメッセージ

就職する前は、教員の仕事は生徒に勉強を教えることだと思っていました。実際は、授業の他にもたくさんの仕事があり、その1つ1つが生徒との関係を作る上で欠かすことのできないものだということがよくわかりました。高校生の頃に思い描いていた「一生勉強する仕事」ではないかもしれないけれど、体を動かしたり、人と関わることが好きな人には向いている職業だと思います。実際に働くと、働く前にイメージしていた魅力のほかにも、自分では思いもしなかった楽しさや活躍の場所が広がっていることがあります。大学で学ぶことを就職への通り道として捉えるのではなく、まずは自分の好きなこと深く学び、そこで学んだこと、体験したことを少しでも生かす道を探してほしいと思います。

<小田章子 (おだあきこ) プロフィール>

埼玉県立熊谷女子高等学校卒業
津田塾大学文学部数学学科卒業
埼玉県立大井高等学校(結婚)を経て、
現在、埼玉県立和光国際高等学校勤務(第1子出産)

